

【学会報告】

学会名：第26回日本生涯スポーツ学会大会

開催日：2024年10月26日(土)~27日(日)

場所：流通科学大学

〈土曜日〉

・シンポジウム

スポーツをより楽しく続けられるためというところを、心理学的な面で考察している先生の話が一番残っています。

・口頭発表

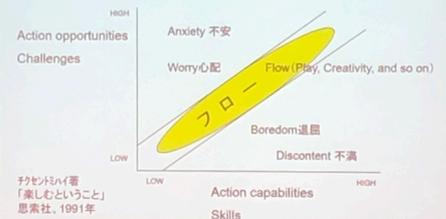
研究発表について、去年は企業で参加しているのは自分だけでしたが、今年は病院での研究発表があり、学生以外でも生涯スポーツに関する研究に対する取り組みの広がりを感じました。去年も聞いてくださっていた学生さんが企業に就職されて聞きに来てくださっていたり、その方から質問をいただいたりと昨年からのつながりも感じることができました。

「慣れ」の要素に関して質問をいただきましたが、企業内での研究ということで「体軸体操を行わない群」を設定することができず、企業内で行う研究の限界を感じました。

貴重な現場からのデータであるため、今後この論文をどのように活かしていきたいかという質問に関しては、まだまだ体軸というのは知識とか理論的な部分でまだまだマイナーな分類に入るので、私感ですが、自分自身スポーツをやっている体軸を取り入れたことでパフォーマンスが上がった体験があるので、もっとスポーツの現場で広まっていくと嬉しいし、そのように活かせるといいなと思っていることを伝えました。



楽しさとは何か(フロー理論)



超越的なフロー体験⇒日常経験を超越した心身没頭状態

口頭発表 I・II (一般口頭発表) 10月26日・27日			
10月26日(土)			
口頭発表 I 会場 6302 教室 座長 久保田 晃生 (東海大学)			
14:40-15:00	OB-01	貯筋運動教室の教室参加前の椅子座り立ちパワー指標と 終了後2年間の運動行動変容	五十嵐 美生 (美田内科循環器科クリニック)
15:00-15:20	OB-02	国外マスターズスポーツ大会参加者の練習量に関する調査	谷所 慶 (関西大学)
5:20-15:40	OB-03	体軸体操の前後における身体機能の即時的変化	畑守 哲明 (株式会社やまちゃん)

【次回研究予定】

体軸体操以外の任意の体操群との運動パフォーマンス変化の比較

【終わりに】

今回はたくさんのデータサンプルを集めるために、全国のスクールに協力を仰ぎ、データ収集を行いました。そのおかげでおよそ90名の年長～小学6年生のデータを集めることができ、昨年よりも統計学的により根拠のある論文を作成することができたと思います。ご協力いただいた全国のスクールトレーナーの皆さん、全国のスクール生の皆さん、ありがとうございました。